良知（らち）しゅんいち活動報告

第16号



ご挨拶

いつも大変お世話になっております。
浜名区・天竜区の静岡県議会議員の良知駿一と申します。
このたび、第16号より、これまでの浜名区に加え、天竜区の皆様にも活動報告をお届けさせていただきます。
次回の県議会議員選挙から、浜名区と天竜区が一つの選挙区となります。天竜区の皆様には、今回初めてご覧いただく方も多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。
私はこれまで、デジタル技術の活用や地域公共交通の維持・充実といった施策に力を入れるとともに、地域の現場に足を運び、皆様の声を伺いながら県政に取り組んでまいりました。
浜名区と天竜区は、豊かな自然や歴史、地域産業など、それぞれに特色と魅力を持つ地域です。一方、郊外や中山間地域では、人口減少や地域公共交通の衰退、生活サービスへのアクセスなど、共通する課題を抱えています。今後は天竜区にも活動の幅を広げ、離れた場所からでも様々なサービスを利用できるデジタル技術の利点を生かすとともに、日々の暮らしに欠かせない移動手段の確保を進めることで、それぞれの地域の実情に応じた課題解決に貢献してまいります。
本号では、県議会での質問をはじめとする議会活動を中心にご報告いたします。引き続き、皆様の率直なご意見をお寄せいただければ幸いです。

９月定例会一般質問

10月1日に開催された県議会本会議（４日目）において、一般質問に登壇しました。
本号では、私からの抜粋した質問と県当局の答弁を要約するとともに、それらに対する私の意見を交えてご報告します。

事務所のご案内



〒431-1304
静岡県浜松市浜名区細江町中川7172-698
ラトゥール101

静岡県議会議員

良知（らち）しゅんいち事務所

連絡先

TEL：053-523-7400
FAX：053-523-7401
Mail：rachi0814@gmail.com
URL：https://rachi-shunichi.jp/

PROFILE

- 1982（昭和57）8月14日生まれ
- 気賀小学校　卒業
- 細江中学校　卒業
- 浜松商業高校　情報処理科　卒業
- 静岡大学　情報学部　卒業
- 静岡大学大学院　情報学研究科　修了
- ㈱リムコーポレーションに勤務（研究開発に従事）
- 静岡県議会議員　初当選（浜松市北区（現浜名区）選出：現在2期目）

●社会活動
浜松市消防団　細江第4分団にて活動中
細江町まちづくり協議会　顧問
浜松市子ども会連合会北区支部　顧問
浜松商業高校後援会　理事
静岡大学情報学部　客員教授（研究員として）
等

【西部地域を起点としたフィジカルＡＩ関連産業の創出について】

Q　ＡＩがロボットなどを通じて現実世界で動作する「フィジカルＡＩ」について、県内企業への技術導入支援にとどまらず、製品やサービスを県内から生み出し、新たな産業として育てることが重要である。県は、企業や大学、研究機関等と連携し、今後どのように産業創出を進めていくのか。

A　県内には西部地域を中心に関連企業が集積し、製造業や医療など幅広い活用分野があることから、実証から産業化までを県内で完結する仕組みの形成を目指す。来年度予算に向け、産学官の連携基盤づくりや開発人材の育成、導入支援などの施策を検討する。

意見　フィジカルＡＩは、静岡県のものづくり産業にとって大きな可能性を持つ分野と考えています。新たな産業の創出に向け、来年度予算での具体的な施策に期待しています。

【ＡＩによる雇用構造の変化への対応について】

Q　ＡＩの普及によって業務の一部が代替・省力化され、新たな技能が求められるなど、雇用構造が変化する可能性がある。こうした変化や、事務職への求職集中と現場職の人材不足を踏まえ、学び直しや職種転換の支援、人材不足職種の処遇や働き方、社会的評価の向上にどう取り組むのか。

A　ＡＩの進展に対応した職業訓練の充実やデジタル人材・現場人材の育成、適性検査や就職相談を踏まえた職種転換支援を進める。また、介護・建設分野などにおけるICT機器の導入、処遇改善、働き方改革、仕事の魅力の発信などを通じ、人材不足職種が選ばれる職業となるよう取り組む。

意見　ＡＩによる雇用構造の変化は、これから本格的に表れてくると考えています。変化の兆候を捉え、いかに機動的に施策を打てるかが重要です。

【全国棚田サミットの開催を通じた棚田地域の振興について】

Q　本年11月、浜松市で第31回全国棚田（千枚田）サミットが開催される。全国の先進事例や参加者とのつながりを県内の棚田保全に生かすとともに、開催地においても継続的な交流や地域振興につなげるため、県としてどのように取り組むのか。

A　サミットでは9つの見学コースと6つの分科会を設け、担い手不足や地域資源の活用などについて議論する。開催後は浜松市と連携し、市内3つの棚田の保全や地域振興に生かすための交流会などを検討するとともに、県内への成果の共有や企業・大学等との連携を進める。

意見　全国から関係者が集まる貴重な機会です。一過性のイベントに終わらせず、地域と外部の人材や企業との継続的なつながりを生み出してほしいと思います。

【地域の移動ニーズを起点とした地域公共交通政策について】

Q

地域公共交通の検討では、収支や利用者数だけでなく、住民がいつ、どこへ、何のために移動したいのかを把握することが重要である。住民や関係者が継続的に参加する欧州の「SUMP（持続可能な都市モビリティ計画）」の考え方を踏まえ、地域の移動ニーズを起点とした交通体系を構築すべきではないか。

A

県では、携帯電話の位置情報などを活用した人流データを分析し、市町に提供する取組を進めている。また、利用状況や収支、利便性などを検証し、オンデマンド交通や公共ライドシェアなども組み合わせながら改善を図る。法定協議会での合意形成やニーズに基づく検討はSUMPに通じるものがあると考えている。

意見

公共交通は、まちづくりの基盤となる重要なものです。目先の収支や利用者数だけにとらわれず、地域の将来像や住民の暮らしを見据え、大局的かつ長期的な視点から、必要な交通サービスとその実現手段を検討すべきだと考えています。

【ＡＩ時代における県立高校の情報系専門学科の在り方について】

Q

ＡＩの進展に伴い、情報系専門学科で育成すべき専門性も変化している。一方、県立高校の情報系専門学科では、多くの学科で定員割れが続いている。県は情報系専門学科でどのような人材を育成し、大学や企業との連携、実践的な学習、教員の指導力向上などを通じて、どのように学科を充実させるのか。

A

情報系専門学科では、最新技術の活用力、情報の取捨選択能力、セキュリティ意識と倫理観を備えた人材を育成する。「N-E.X.T.ハイスクール構想」のノウハウを取り入れ、外部人材の授業での活用や教員研修の強化を進めるほか、児童生徒や保護者に情報分野の魅力や将来の職業とのつながりを伝える。

意見

答弁では、最新技術の活用力や情報の取捨選択能力などが示されましたが、情報系専門学科でどのような専門性を持つ人材を育てるのか、具体像は依然として不明確です。まずは育成する人材像を明確にし、それに基づいた教育内容の充実や大学・企業との連携を進めてほしいと思います。

【災害時における特別支援学校の対応について】

Q

大規模災害時には、避難所に指定されていない特別支援学校にも、地域住民が避難してくる可能性がある。一般の避難者を受け入れざるを得ない事態も想定し、障害のある児童生徒の安全確保と学校機能の維持の観点から、事前の備えと災害時の対応について県はどのように考えるのか。

A

県内の特別支援学校17校が福祉避難所に指定されている。近隣住民に対して在校生と家族などを優先的に受け入れる施設であることの理解を求めるとともに、一般の避難者との生活空間を分ける方法の検討やシミュレーションを実施し、市町や自主防災組織との情報共有を進める。

意見

大規模災害時には想定外の事態も起こり得ます。児童生徒の安全を最優先にしつつ、地域住民が避難してきた場合にも対応できる備えを標準的なものとしてほしいと思います。

危機管理くらし環境委員会

今年度は、県議会の常任委員会である「危機管理くらし環境委員会」に所属しています。
本号では、６月・９月定例会の委員会審査における私からの抜粋した質問と県当局の答弁を要約するとともに、それらに対する私の意見を交えてご報告します。

【消防団員の充実・強化に向けた取組について（６月定例会）】

Q

県では、消防団活動に配慮した就業規則の整備などを通じて活動環境の改善を図っているが、これが団員の増加にどのようにつながると考えているのか。また、消防団活動を支援する企業への税額控除は、団員やその家族に直接還元される仕組みとなっているのか。団員や家族に対するインセンティブの充実について、県の考えを伺う。

A

企業が消防団活動への理解を示すことで、入団をためらう要因の軽減につながると考えている。企業への事業税の控除は、団員や家族に直接還元される仕組みではない。一方、団員や家族が飲食や買い物の割引を受けられる「消防団応援の店」制度は、県内19市町で導入され、令和8年1月末時点で800店舗以上が協力している。今後も制度の普及・拡充を図る。

意見

消防団員の確保には、活動する本人だけでなく、支える家族への配慮も重要だと考えています。企業への支援に加え、団員や家族が直接メリットを感じられるように、踏み込んだ仕組みの充実を期待しています。

【リニア中央新幹線工事に関する生データの取り扱いについて（９月定例会）】

Q

リニア工事に伴う水量や水温などの計測データについて、JR東海から県に提出されるまでの間に、数値の選別・修正・削除などが可能な工程は存在するのか。また、提出されるデータが計測時のものと同一であることを、どのように担保しているのか。データの信頼性を確保するため、生データの公開についても県の考えを伺う。

A

ＪＲ東海から県への報告では、1時間ごとの計測値を日平均にするなど、定められた方法でデータを編集するため、提出される数値は生データそのものではない。ただし、県が求めれば生データの取得は可能と認識している。計測時のデータはそのまま記録・蓄積されていると認識しており、専門部会で合意した203項目のモニタリング結果は、JR東海と県が公表していく。

意見

データの信頼性は、事業者を信頼するだけでなく、客観的に検証できる仕組みによって確保することが重要です。生データも含めて積極的に公開することが、県民の理解と信頼につながると考えています。

お知らせ

お話しませんか？

私と１～数人でお話しませんか？
内容はなんでも結構です。身の回りの困りごとやご相談、私のこれからの社会に対する考えなど…。
お話の場を通じて政策へのひらめきが生まれることもありますので、ぜひお気軽にご連絡ください！
事務所への電話やメール、ホームページからの問い合わせなど、ご連絡方法は問いません。（連絡先は表面）



ラジオで県政情報を発信しています。

番 組 名：KENGI DE Night ！　　放送局：FM Haro! (76.1MHz)
担当日時：第１月曜日　19時30分～20時00分